

大学構内の一角に立つかヤキの大木を見上げると、4月上旬の空いっぱいに若葉が広がっていました。ついこの間まで枝だけだったはずなのに、ある日を境に一斉に芽吹き、樹冠全体がやわらかな緑に包まれています。その色合いは、まるで水彩絵の具の「リーフグリーン」をそのまま空に広げたかのようで、透き通るような明るさと軽やかさを感じさせます。光を受けた葉は一枚一枚が輝き、風に揺れるたびに微細なきらめきを生み出し、木全体が呼吸しているようにも見えます。

幹や太い枝はまだ冬の記憶をとどめるような落ち着いた色をしています。その先端からあふれ出す新緑は、季節の移ろいをはっきりと告げています。ちょうど同じ頃、周囲ではサクラが咲き誇り、淡い花の色とこの鮮やかな若葉の対比が、春という季節の豊かさをいっそう引き立てています。かヤキの新緑は、満開のサクラとはまた異なる形で、静かに、しかし確かに「本格的な春の到来」を実感させてくれる存在です。

